



人を育て 人が輝き まちに活力

◎特集 1 / 平成30年度施政方針

内務大臣や東京市長など重職を歴任し、本県にも縁のある「後藤新平」は、大胆な発想と実行力で、関東大震災からの復興など、国の発展に大きな貢献をされました。

後藤は、「金を残すは下、仕事を残すは中、人を残すは上」との言葉を残しています。

私たちは今、少子化や超高齢化など大変難しい問題に直面し、また、第4次産業革命といわれる急激な社会経済的变化への対応に迫られています。

しかし、これらに正面から向き合い、前例や既成概念にとらわれず、的確な手を打つこと、そして何よりも次代を担う人材を育てていくことにより、未来を切り拓けるものと考えています。

輝ける白河をつくるため、誠心誠意、市政運営に邁進します。

白河市長 鈴木 和夫





産業の振興

- 会津大学と協定を締結し、大学研究者や学生との交流を進め、研究開発や特許の出願・活用を促し、地元企業の底上げを図ります。
- 産業サポート白河と連携し、ものづくり企業の技術の高度化や国内外の販路拡大を支援します。
- 在宅勤務やフリーランスで働く人などが交流できる「コワーキングスペース」を街なかに新設します。
- 先進的な農業技術を学ぶための研修費用を助成します。

コミュニティの充実

- 町内会が行う農業用施設の修繕等を支援する「結」支援事業を充実させます。
- コミュニティ・カフェ「エマノン」での活動を支援し、若者のまちづくりへの参加を促します。
- 高齢者サロンを拡充し、気軽集えるコミュニティの場を充実させます。
- 地域包括支援センターを増設し、安心して暮らせる体制を整備します。
- 集会所の整備や町内会活動、団体の活動への助成を推進します。
- 効果的な情報発信のあり方を検討する「シティプロモーション」に取り組みます。



交流人口の拡大

- 戊辰 150 周年記念事業を実施します。
- ゴルフ場に着目したモニターツアーを開催し、外国人旅行者の誘致を進めます。
- 市外・県外から移住する世帯に住宅取得費用を助成します。
- 移住や二地域居住につなげるため、空き家を改装した「お試し居住」を行います。
- きめ細かい公共交通網の形成に向け、循環バスの日曜・祝日試験運行を継続、タクシーの運賃助成を試験的に実施します。
- 「空き家バンク」の利活用を進めるとともに「お試し居住」を継続します。



平成 30 年度施政方針 人を育て、人が輝き、まちに活力

「施政方針」は、市政運営にあたり基本的な考え方や当初予算の概要、主な事業について述べたものです。

平成 30 年度は、市の未来を担う子どもたちが健やかに成長し、市民一人ひとりがいきいきと暮らし、活力に満ちた「まち」をつくるための施策を推進します。

今月号では、施政方針の中から、主な事業などを紹介します。なお、詳しくは市ホームページをご覧ください。



子育て支援



- 出生から 1 歳までの間、紙おむつやゴミ袋などと交換できる 1 人あたり年間 3 万円分の「クーポン券」を支給します。
- 待機児童対策として、新白河ライフパーク内に小規模保育園を新設します。
- 保育人材を確保するため、嘱託の保育士給与を月額平均 3 万 6 千円アップします。
- 病児保育園の整備に着手します。
- 医師確保のため、小児科や在宅療養医師の開業を支援します。
- マイタウン白河に高齢者や子どもたちなどが気軽に交流できる場を設置します。



教育環境の充実

- 小・中学校トイレの洋式化計画を見直し、平成 30 年度内に整備します。
- 学校司書の配置や小学校への電子黒板の設置を拡充します。
- 奨学金の返還期間を延長し、大学等を卒業後、5 年間市内に居住し就労している場合には、返還金を一部免除します。
- 子どものいじめ防止条例を制定します。
- 白河第二中学校の改築設計に着手します。